十

歌と詞とを若干

へ利
20
11

へ18
20
7

特12
門 利
号 20
巻 47

源氏廿六ノ三月ヨリ廿七ヲマデ

うき雲雨風やまず神なりこげまどまで日ぐらめ
ひとまれつびしくこそとくずらずこそうきり
ゆくさるるこそさびあるなれ心づくしもえあばし
なすさびいうせまし　うちとて物よりうんとも
まぐるゆうされまるくてい人ともられること
こそまさしあれられうきみをまめやや
ゆくこしうまうしと芸れまと波風ようはげされて
うんと人のいひつくんとと波のせまでいとうろ
ぐろしくそやうぐしくんとあばしこぐれ
喜まもしでおるぐさ海ろまくこそ
そしこそもとこのふくまるくてあけうく

日ゝずよそへて京のうまいもぐあばつるくゝ
くゝるぐゝえぬちぐゝつるまやとゝろぼそう
なばさどゝうらさゝ出べくもあるあをのこぐれよ
いでたちまうへまるゝ二葉院ゝをおかぐちよ
あやゝき楽ゝてそぼちゝれるみちゝひまそぐる
人うるよぐゝどるゆゝんでゝくべくもあゝずま
びぬひゝちひゝびべきゝびぬのれの袁よむつまゝう
なばさゝくゝも紙るぐゝうゝけるくゝぐゝよけゝ
ゝゝのぬぐゝせゝゝる風ゝゝはあゝまゝくゝを
やゝるゝゝゝの気色ゝいぐゝゝへゝぐゝゝゝち
ゝてゝるぐあやるゝゝなくゝるん

滝風やいゝよゝゝんゝひやる袖打あゝ
るゝまゝるゝれ袁ゝるゝゝぐゝもゝゝあつめ
ゝゝりひゝゝあゝゝゝいゝぐみぐゝいまゝりめべく
ゝゝゝゝゝゝゝゝ京ゝゝゝれ雨風いゝあやゝゝき
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝて仁王会ゝぐゝゝるゝゝべゝ
ゝるん笑ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ上遣ゝゝぐゝゝすべ
てゝゝぐゝてゝゝゝぐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝぐゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ京の
ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

例のもとめこゝをおどろきあるいはくげのそこ
ゐるどうのひかりいうづちのこゑまもなくい
ゆるぎうごきなどいとゞこゝ海よりおどろきなびき
てをろがみのいとうこゝろも心ばせさ海うりけ
くしてこゝはつきあべこゝやとおばこゝろくそ
その日の曉より風いとうづう吹塩こゝうこゝろて
涙の雨あこゝさこゝいこゝ海も山もあるまでこゝ色
ゐるうこのゐるひかめくこゝ海こゝよいこんうこゝく
ておちうこゝあとおばゆゐるおうこゝうこゝこゝ人
ゐる我こゝいうゐるつこをおこてうくこゝうこゝこゝ
めこゝうこんちくゆゐるあひこゝうこゝうこゝこめこの

ゐをもこゝでこゝめべこゝこゝくこゝなけく怨これこゝうを
こゝめてこゝうこゝうづうのあやまちうこゝこれこゝうづこゝこ
命とこゝこゝこゝめんとこゝうこゝうおばこゝなせどこゝ海こゝ
づこれこゝべこゝのこゝてづこゝこゝこゝうこゝこゝげこゝをめて　すこゝこゝ
のこゝこゝこゝ

念じ奉りていはうのうさきやまやしるされ
まひて多くのあしきことをぞう治しうぐよう
きれうけうこおはやしまるのまくぐび
めるとどぐをそてはくうへ治しぐ今何乃
むろひまうこうこそ海ろ波風よいはばわ社
治ゑん天地とくりまへづきろくてつきまあろう
つきこうねをられ家をくるれぐひをうりて
明れやすきそこるくなげきまのようくるーき
めぐさへ命つきるんとすいぶ者の世のむこひ
び世のそこうと神はとけあこうこまし海
さぐこれうれへやすめまへどこやころのこる

むきて海ぐくの歌をそて文海の中の龍王よ
ろびの神こうる歌こそを治よいくるりどろ
こそおりまるつきこうらうまおちうりぬ
はのかきあぐりてらういやけめこうろざまし
るくておう恨まどおうころのくるる大歌義と
はばしこやようつしなりて上下とるく立こて
いくらうぐこくなきとくもむこいぐちまま
おこうぐ光い芸をすりうこやうまて日まれま
ろう

やうく風うせり雨のあしもうほしのひら
もとゆるるこれあり一所のいとめげうとする
ものくうでけるくてそんでんようへうしまんさ
すると。やけ物ありうるもうとまつげうそうの
人のうとうぐろうまぐるようとうとうとかぶ
ちうてぐり衆をあうてうとうとうとうぐり
あへるうえいゆるんずしまそなばしめぐうする
いと心あくうくうしかうてだぶのうくうち
けう仏もあうとうるうぐり祝うをうくる泡あうとを
味の戸をいけて泳めかうしまちうとうせかいる
ものくうろをとうとうるゆくうれのとうち

はるばるとやくやくとうぐいすとうきとうへまるで
あやたちなびきなどもなどのうちうへおいすう雨とて
あけまうきとうて雲も立ちのぼりなびきたえづり
あへるもいとめづらかなれどえさひもとうとうず
海の内
えれば風いまだいまだ
のうち雨ふるうちまもうみのうすけをろっかなう
ざりうちとくいつ風とうち絡ふいとこぼそうとうへず
をろうるり
海
海ますうえれうすけうとうず八しはん
やをあひうすうへるまし日孫まするいうりまと
つる風のさしぶるさうそうへいうとううづ絡ま

えれば心
なまし雨ふるれば
まくうへるうちうちのそうるぐくあやしうう雨
まは地すうぞうれるはうりてひうそうて絡信吾
の雨のうちびうう絡まうやあるでうそうえれ
うう成ううれとの絡ふいとうれうそうう
はれうびるつれまうまうしうるうう雨ぐううしうう
くのうう雨くはれば今いうえれるぐうう雨なやは
はるまうとううそうしの人院行ばいとあるまうぐううく
えれいうぐいううるまくむうひうりつれも
ううあるありしは時あやまりとうりしうぐ

をのづからあり
いとまなくてはしたなく
うれへなるをづむをうる
るざさるのぼりいとく
つあでるぶりる夢すべ
いそぐのぼりめるとて立
てはとまるをうるんと
れぶへまるくて月のれ
夢の心ちもぶれけるひ
雲衣よりれびそりぶ
で逆ういばつるるれ
さぶうるのこ面ばまて我く
るるこ代こそあいのちつさんといる代
ふるけるけるのるとあれるばするく
ぞうるそぶもをけっとなれまうれ
とばぶ落と恨るむれつとわさぶて中こる
れ心まどひるぞうつのるることもみつれて
ゆめるもれいへをいまるするそぞるりめる
くといぶをるえやこ落とこるれいと
の人どこるれめとあるで覚ぐるぬるる
るざるちいやるるみこそて人三人ぶりば
ふびのれやぶりをこてくるへるんとへば

播磨前司入道心

あう
明石の浦うらさびしきのみにあひそひて
ものがたりする源の湘云さうしひさまつぐ対面して
こゝろ心ぞうりさんといふこゝろおどろきて
入道こゝろのうちくいて辛びあひうらひ
ぬれどうらまいさうあひうらひろこと
ばてどとるをうそうそばさでひさう
ケうぬめるぬぞこのまぐれまいうするこゝろ
めんとはぬめくえんのれ夢をすぐもおぼし
あしすることもありてやあへとのまへで毎日
いさてあひうりさぐうりいぐうりいう沼うぜる
いつのるまうふるでさうこんとこゝろえぐくを

入行

とうりいめうついうちのひの夢ゆさ陶こくをなか
まくつげさてすることぬ作ぬうぐたんぐうさ
こゝろはひさまへうぐ十三日はあうこゝろ
さうこんあぬうこゝひまうこゝ必西風やまで
ぬうこゝうをこゝとくれてためすこゝの作うぐ
こゝろこゝまのこゝこゝひをまうけて作作ぬ
いあうさ宮いぐちのおどろうこゝうれが
人のみぐこゝも夢ひをこんてぐこゝをこゝすこゝ
さぐひはうぬけうをまうねぬ作うあまでも
こゝいうめれひをすぐこゝれうこゝとつげ
作んこゝ毎いぐ作つこゝあやうこゝ角はこう

かきてびはをつきはらふ。海とり井のさえ
さざなみうごくもうらめずらしやな
はつうんとてるんいとまもなくぶりはなれどこの
うりゃの人とりつぶうをまびやるつくへ。
ほん
えいはばしまうする。ゆめうつさ海ぐさげう
るうず。さうしのやうなるうこぐもとうしるる
ゆく末はばしあくとそ。ふれ人のまつへひはの
そうつもやすうざりべうばそぐりて海うく
の井のうすけまもあうんとそむく地るうぐえれ
うり海うりてくへつうれるうめうやうんうけの
人の心ぐるうばうるうぐうるうをもうこて。

我よりうまうひまううりまいうるうくうさうの
ようを今ひとうはまううんはるびうさるうぐひても
心むけばうどうべうさまれるうりうりぞううてとぐか
しくうて。そうしのううさんもいひ。ものれげる
くいのちをうさいめうるくるうめれ限をうりて
けうざるのちのはうれうばはぐうてもうけうさ
ううまあうぐゆめれ中まもちうみうぐのれを
しへありうれいぐまうるうぐとううるうぐうんとお
ぼうてれうりのの(保羽)あ世(セふ)界りめうぐうさ
うれへのうざりうれどうれのうくうりうてうとくひ
とうする人まううぐめ出来うるうこのれ日の

ひろびろを高のとくるまあ海よりれ
さつりぶわ紙うんぶれ海よふげやうくろふ
ぐさうまゆりうんやとのあふ鈴ぐりとくろろ
よびうこまりとそとくるもあれうくまあれ萩の
あけてあさそよれあれとれとて例のふ
こうさうぶり宮め人へぐりしてまりめれいの
ねいでさてとぶやうるあこうさまめ

ふぐるひつるほいふるこころさのまといへどうは
あやしうまでこゆるぞのころろりぐ海の
海げよいとこころこよとるり人きげうみゆか
のこうんだこころよそむこけつ道のらうぐこあ
ろ下ぐ海のつくるもも山ぐれるもぬぐこつけて
けうをこうすべさうぐされとやをこるひとて
枝のせのことをこすすまけべさ山水のつる
いあうこさぐうと立てご味をこるひこれよれ
まうけよ秋のこれこをうおこあのこうのようん
けむべさいのこうまちぐるぐおりくこころる
けけくうこぐこうなりてこあつめこうこうほよ

なりてこれぐろむこめちどいどんべのやどるうけ
してすすをこれいどれこれこ海のこちょこころやすく
なりまます舟よりれ車よりうつうほぐ目やう
くこうのぼりて目のこようよりう竜もひとれ
ここひのぐう心ちこて立こうえてまけ住よのの
神をこりぐくなぐこなるう海日の光をよえなり
こう心ちこて行こうこうまりる変ぐどこう
まり前のこ海をいこうこまいこぐけこうるこう
こうこぐへず立こていけ前栽こぐの方植えもいも
ぬ入江の水をぐ立こようこ底心のいこうすくこうん
立こいうこさこうまぐこうこ海ぐこるのれこま

ゐるりいとよりくあるさうるけうしれさけ
らひをどえるるずして すまゐけうさ海るどげる
物のやんごとるるさとろぐるとやるるどえんる
まだゆうさ海いまうりざ海るどゆうすうれ心
ちげまりていゑのれゆうことどもうるて絵ゑれうし
つるひいうまはいうりどうさうるゑうるうてるるしさ
めれみうとるるさうげうて あれすまるるとまりうう
をめしてうるあまれうれどもゑ絵てつハ
すむつまりされいのうのしどもうるべうるるるゑ
はれのれ絵くうくいひつうすべしたの夫
ゐりるいめづううて よりうさ海ゑどきて

絵二帝院のあうれ女しはどれゆうりいううさまや
ゐ絵ゑずうりうるさくなるのどひつうさて絵
れ氣色るれうくるり久すくいうりうさめれ恨を
ゑひううてつなりうさ海るれいまうれうれうひ
ろるるく心のゑ海うり絵れどうりれうてもやく
のるひし面げのるるるるるるうるるるるるるるはう
るるりやうりうるるるるるるるるるるるるるるるるる
ゑれうるれて
ゑ海るるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
りるるる海りるるるるるるるるるるるるるるるる
ゑてるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

こゝろくるくるさぞうまの人ゐまでいとこの海
はしさそじめるる波いとゝよるされ心ざしの程
と人べくゝてまつるさのくゝ高き心ばそげなる
ことつて　そべるやこゝろしそれ気色
名おるくすこつりてあるりするのまどもはそゝ
こげるる波まはいと心ばそうてなのれいとやも
まれるりしと人しげさいとひいこ程しゝど
ゝそゝ人こゝよゝ衰るゝとおほうてよろげは
ばしるぐさまるおうぐれ人道ところひけとあるゝ
こ海いゝうゝとする母しるばゝぐこれ姫ひゝりを
まてつづひゝるゝこゝいとゝゝつゝこまで

ゝゝぐまゝうれ人ゆれ心ゝまるおゝしと
ゝゝゝ結し人るれぐくゝばくゝて光ゝり
おりしるもゝゝべこ契あるまやとあばしるぐ
るる波ゝうこ波こげめるほどいをこるひゝり和の
ゝといこつ程の人もゝぐるゝゝいひしま
ふぐふと波ばえんも心ゝぐしうばゝゝれば気
気ぐゝ結ゝとゝるしゝゝまれてゝゝるぐゝ程
るべてるゝぐもまけゝれとゆゝうばれめ
ゝもあゝぐゝる波りこまりてげゝゝも
おゝくまいゝぐまれへぐゝゝゝとゝゝしものやう
ゝつ海ゝゝいのきれゝ生ゝまねゝゝ思

笑ていとでゐるに心をうつしてとほとの神を
いのりてもてこそまうる。年は六十ばかりなり
なりこれどいとこそこそげなあるまねをしたる
こしぼひてゐ人のほどのあてやかなれば
うちひがごとはをぢもこそといはれどいとへの
ことをこそつとめてこれさしもあらじとこそ
こそまゐれ。ぐぶりのほうぎをせて笑ひて
すこしつれづれのまぎれるるほどやけ
ぬらんとて。ほうぎもとく亟のあるれ
ばこそまぐでいでくこそ。ほんのうあるを人を
ところどころまゐらばさうぐしくやとるべけう

ありとはばかりくこそもまゐるかうをもちてこそ
れどいとけうこそ心をづからこそされ有ばよさこそ
いひしがけくまうこそまうてゐづをとはこそのの
まくもえうち出でしめと心もとなうロはとと
こそまくいひあはをてこそまゐるげくこそ
なべての人ぐるめやすこそいこそあ世界よりよこそ
こそ人もおりこそこそ。こつけて方乃
往こそれていとこそこそこそ。ものこそ
くこそひあつこそこそ。おやこそ
こそつこそまゐるこそこそこそ
こそつこそまゐるこそこそ。月はよりも
衣ぐ人の所こそうぐくこそ。世のこそびこそまゐ

海はるかいでよろげよつてまつりけるむをい（深）
とおもしうすぐろかなりとあばきど人ぞ海のあく
までこあぐりうる海のあてるまあばしゆりて
うなぎ京よりもうちたちうろれうてひださゆき
るくはなりのどやうるゆみづ東は海のとく
もりるくこしつるわるもずこうれるひしるとの
いけはよこまづべくれのるいくんうなくうひしさ
よいづるとまるくゆり来るさゆちきあてぐ
めれまへはやうるふあちぐ鴻なるとうりあるる
ちうるなどの給て
あくとうろけうちぐの鴻のあくれえ海ゆうる海

なくとあるうれはひうしうてもれうる海へ
うんをふうろうるもむあてゆるくうるうる
めへるれうまれぐうてまつうへもやすうず衰は
るうしうあへり鷹陵（ようりう）といてをおううぐりひさ
すまへるくよれうへの家も松のひぐうるこの
うるあひて心ぐせあるわうへ分まうてよ
べありうるとしうわうるまうぐうれもれ
うぐうるひべどまうすぐうるううて海風をひさ
りうくへ道もえうへでくるやうぼうぐゆうて いそぐ
うれりうるうるむううう世の中もうへ心
知あべくゆうほのうるねぐゆうれのあるうる海も

さつきまつ人やうくまれさ海れとなくくめでさ
しもつがれ（添ん）ころもおりくのれあそびそれ人々
人のことゝえましいこゑの出しさ海はまこゝ清け
てようめでられゆひしなりさ海みどうゆとも
じめをりてまてうつさあがれ生り結しを
人の人もつがれ月のを結もはしいでられて
雪のうちし結まくまさるくまくるこゑも
ろすぐ〳〵ゆうぐへいるうぐをとゑんあへぞ
をくべまびをさうのこゝとうりまやつまてへ道びし
の法（ゲン）しまをりていとあるしう光づうて
ひとりさつりいでしりうさうれれ琴まりうれば

（添）
をくうひさゆもさ海（入名ん）ぐいうぐうのさをひ笑し
ゝりいとくさしも笑ゝあもゝひざるおりうゝそい
海ゝうもれゆうれぐうゝ光ゝくゝもゝくぐゝ海りうるさ
うゝづゝゆるゝ中ゝ三秋の花紅葉のさうゝゆる
ゝりはゝぐをこゝくゝゝうゝげわうゝげどもゝゆ海
ゆうゝうゝうあかのうちうゝこゝさゝうゝ海ゝ門さ
しゝてゝあゝれゝゆゝ孫（入名）をいゝうゝうゝいづう
ゝくぐゝれゝいゝゝゝうゝひゝさゝうゝしゝうゝるゝれ（孫）
ゝうゝと海りゝてゝれ（羽）いゝあのゝうゝけゝうゝゝゝ海ゝゝて去
どけうゝくゝひゝさゝうゝゝそゝうゝしゝれゝとゝゆゝうゝる
のゝふをゝゝゝあゝひゝうゝくゝうゝち去ゝゝてゝおそ（入名行）ゝゝゝう

たちてうきを後たちハいづれの位にあるべき
延喜（えんぎ）のれてうひきつてへうきと代（だい）をたん
ぜうの位めるなりうるさきをまてこれをとい
ま（今）はれの位めるなりまをくきちるいづきをありくハ
ときちるこの位めるなりあやしうまのぶまをくの位
こそどのんをれをむひつのれをまをひて位れ
山ザーのひがをくをはなをきつてこをべるる
やあんいうでこれをのびてきをくあきをせて
ぐをくをゆるまをうちつてきをぶおを寺
べをり（侍）ぬこをなをくをまをくの位をまをくをとけか
あをりをひをきをつぎをれをてをしやをとをまふ

あや（綾）しう世をうをきをいかをんひきをとる地をり
けをけぶのれをつをへをて安久の愛をかをれをなをれ
ぶををまれしの治けをなをれをれをすぢをてをうをて
ひをををへををすをでをいまををるなを位をか
人をををををでの心やをををををのをあををををこ
をうひをきをめををりけをいをけをうをけをれ
いをでをををををををの位ををををめをんををる位の
ををでををををををんをまをへをめををてをもをあをををへの
中ををををををををををををををををへをを位をれ
びをををん位をををのををををををををををををへをををを
ををを位ををををををををををををををををををををををををををを

うしさてなどすぐしてまるんいとでとどるよさ
でんあらさなこれ此るまでおいうるうも
らふまくれちどくうさつひろまれたげうさ海
ざるくありくもはるなすどすきるれば係ばおりくと
ばくてさうの琴さうくへて絵をさうげる
けくすくてくいひさうふまれよる学めすぐ
ひさつけてどづくひいというくうめさゆのひふう
うすまくうくいせの海うくひどさうれるざさうる
くやひろりんるどくこるふるさんへようくまて我も係
はすくひやうくどりてどふうちくへる我絵ひさ
うつめでさくまれたすど光づくさ

さ海まて来くせ人ぐまるけきるそくるどくて
そのびくくまれこれまめべきまれ海ろいくく
かけりまくよ松くぐせきどくうて日も入ぐる
るるまくよすさ海さうりてきげくるる行よ絵物語
のくるくる学くてこれ海ますさりどめくはどれ
くくろづひのちのしばつくむるさ海うきこびし
学くてこれむすめれ有様とくどどくるささも
係ふ
おりくさまくさすぐる表とさめまりぐくもる
入行行
ひどくさりやどくくさとくまれど我さこうばし
るくさ世界ようりまてもうくろひおりくまくろ
も辛どくおいぼうくのいのりやくべる神

ほとけのあくれひおりまして志ゞの程浄心
をもたやまゝまうまやとるんやふのまうそのゆゑ
住吉の神をされこくゞめなりて此十八年よ
りゆめれまうらのいとくさるうゆゝまりやゝ心
ゆりてゞゝごろの去秋ごとよりれこやゝしろる
まうこよたん作ゆひるふるの六時のけとめよ
こゞゝのさちのうへのひをばさるまれて
さゞれ人をさゝさほいれへさまへとるん念ゞ
ゆゝさゝれよの祭(ちぎり)つるさるてこそゞくちりまさ
山ゞけとるゆけめおやゞ尼のくるねをさもち
しまへうさゞけうくねるれ民(たみ)となりても

ゞうゞくさのこおとりまうんハ何の為ようゆゝ
るんとゞるくゞひゆをゞれもむまれし
時ゆりれむ有るん作ゆゝるして教のうさんへる
なうんとゞふ心ゆうゞるゆゝくゞけて
あまるのそのこをゞくひこれあうゞうさめ成み
ふゆりくもゆゝくゆれゞさるゞうこと
ゆまひさまへゞ命のゞゞりいきゞさ袖ゆまゞこ
ゆるんゞくるゞこうすて作かゞ海の中にもまゞ
まうせれとるんあさて作ゆゝゞすゞてまゞゞゞ
あゝあゝゞゞゞ成ゞゝちるさくこさゝ(浦人)ゞもれ
を海ゞくゞゞゞゞゝゝゝゝちるゞ

ゆくすえをかぞへてみるに海のいろあるうて
ひとりのせ界をうしなふものこそよけれ
なげつるくせひいりぬるものぐるほ
あくまれば げにあさくあさのおもちぐるは
くそくと 衣をたんたくくぐるさひとり
なげうつとばいまでいつげ給いざりつてんこや
くるれしとさとりまれつれるさまあづさるう
さこるひとりみのうとなくて月日をあるまころ
もうれんびはれるうりうるへまれし給といはのさ
きるぐるいうづくべをばゆくしさまれまこそ
ゆりひすてゆるめとさひるむじつるばざるばうち
びさゆめべこそまこそあるれぶばそさひとりれの
なぐあるもなどのゆをぐざりなくうれ
と申まつり
八五 ひとりれいたまとりめやつれぐと申ひ
あしの海さびしうあ式

入会
もてうつ月ごろまへつるいぶせさをなぐさ
うもせめてやこゝろゆけるひうちつるくされ
どゝすぐるゆへるもゝぶされどうもれうん
ひとくとて

添えうち
掾衣うちうるまあるまの掾い
愛もむすぐぶどうちうるれうるれ海もい
もでおいげつきいつちうちるきれけもひるる
くぶもつあこゝぶ笑いけうれどうもうや
ひぐこゝどもうこゝもうれぶいぶぐおこう
るくうるこゝ入名のうろぶへもあうれめべか
ゆう坊入会もうもうひぐうるひめるゝちしてず

ちうさひおろうる（深）まろこの日のひるつるさをぐる
れわこつるすこうろくづ〜ふこ海ちまあらも
中くうるまれく海まそ〜ぜの邪るよくもこまう
べらめうとこうろづひしーめてこるれうるこをの
ううるえるもずひこつくくろひて
（深）こちらちもこあ雲ねるるびるめし
やどの東こそどうぶるよいくぐうやあるけん
へるも人これずまちうこわるてれ変るこるうう
けうもうるれれれつひいとまだゆきまでゑりす
れうりいくひこうちるいうてうぐのせぐむ
すあ見更るうるずくこづ げうれみみん

海よさ（雲心）いぞんるつるまるぐてうつまぢう
人のれ行けつる多のほどさるるるるまるくてゆちなて
とてちうめいひ（入名）びて入るぞくいと（改行）もし
こうこ見おるるびくけうるぬまくよ入こあまう
めうるやこうるここの人もをるびをぐあうこ
こるなんざる見
（入名）るづひんおるぐ雲ねとるぐむろはおまひも
ねるるぐこひるうこんどるるんこあるるいとすこぐ
しやと笑こうこちのこるがこるよいこうるめこ
れどかこざ海ちこだこうこうげ（深）よすこうこ
るるくめざ海しうこ結れつひよこべてこうこあ

ゐまもなくづけうまるの日あんどぐさいみ
ちてすちんとて
いぶせくもろるまれをそやむれやらや
いるるとうの人まるるこゝひぐるこゝとゝこゝみてびてい
というるるびうるうすやうるいとういうて
びるうさめうづうるさ人のめでざんもいとあ
まりむまれいるうんめでうというれどるず
らひるあのほどのいうどうひかれば半こ
るあるまとうづれうるつけて消ぐまれ
てざうる例のうるうばきあていれてあうう
ぐ三めうるむうこうみうるよすこつうこく

うすくまざううて
ぐうんううるの行やくよいるまざうあ人の
ぐうるやまんてのうる海るううる海るぐやんどと
るうさひとうよいうとうるまどうどぐめうこう
家のうくるぐておううとうへどうちううて
つうこうむも人めてまくれば三三日へぐていく
れぐうるの言まもくもれ衰るう明ぼのうまど
やうるまざううてうくひとるもあるぐ四る
ううめべうほどうるううてううこうる結る
まげるうぐうるうるうくなひあぐうる高文と
うでいやまどとぼどまれうるうこうるようらう

ぞていひしゝ気色もめざましう海ちう幸ごろ心づけて
あるんをめれまへはなるひとごてんもいとはしう
なるしめづらしうれてくんすくこまるぶさち方にて
海ぶづらしてんとなるばそど（略）あいこぐ中こやんごと
うれきいのへちもうこうぜひあぐりて孫こげま
まてうし笑れれぶ心ろくべてそすぎけう京の（ほん）
こぐ紙づくきこへぶこりていいよくなばつろく
なるひこきこし給ていいるせまるぶこれまろる
あるれたのびてやむひ人なりてまとなばし
ようろはりくあれどこうとまろやそうとう
このんいまこへけろこきこをやいとなばし

たげめこうそれこうなるやけくまれくこくし
ちこうりてまれこけぐこきこくなるう三月十
二日うこちうひくめこきあ月こきあ東みち
どれれ夢ま流のみしぐどなまへのえつの詳ま
こせあてれ気色いとあしうてまこうこうて
こせ給ぐ（浄）こまりておこうまます学（悦）こせ給
こくぐもなるう源氏（地）のれこくぐまちけつ

いとおそろしういとゝ
ものしさせ給へれば蔵人
なりるゝこといとぞ侍
なるしおどろくまでこさとと
しまこあるをみふとうこ給
て〻こうへぐうちやゝこう給
ぬるもうぐるくをこせ給
ことろのれこそひるれどうぐくまをのけ
さけぐこさとあるこよ犬やもそこそこちう
つぐひまて行れば〻ろ給やうなる内
なるしこそぐくこあ源氏を

来海こるとうすとくるさすてぐさづむるらば
るるぞるれむらひありたんとるんなばしうまふ
いまたちぬまとのてねねをもあひてんとうびく
なばしの給を世（絶汁）のまぐさうろぐさやうぬべし
つるあぐて給をさらしへをこと世をぞるすぐ
うゆうされんことよれへまいうぐいひつえは
らむこまぐ若（さはうき）ういさあ給ゆ（清）なばしうぐるる
はぐるは日ぐさるりてれちやこどもこ海ぐる
ともりまうこせのふおしこの例のあさいち海
はのことるうびり（係）れまやるあまびる
ぎうて八をうまりくうるせ給（係汁）ぐうう

まぐうりてぐちまうせとこの給てうり給
んうとびあうまぐうなばしうる成（器）ぐうしぐこうる
さうるどひうひべくもあうぐいとちあしる
きこのあちうべうそうるうぐうるうへのうちと
けぐうるつうそうやううるうるうふま
ぐ成まをちれへうぐるまなばれぐんあれ（絶）
成いいうぐうきあれうひとやうてんぐくとうびるる
心をうへうあやうちまうぐりてすぐと年月
うそおひちぐのうるりあの来ろうよくぐうめ
中うる心をやつくうんとうひて・うぐひうる
なばうんはぐうれ文ぐうりとうをはうむ

[illegible]
人のれいりゝ海をはのうゝ
うゝ[illegible]ひゝゝゝしをうゝ[illegible]ひけゞうし
れゝ海ゐうゝ[illegible]ゐうれゞはのうゝ[illegible]
うゝ和ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝけれのれ[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

(ほ)
恋いすてこの海やとまぶれる舟しまりひき
つろひて来みていそぐ給れ車をまくけ
ちりまれど高きしてれ馬まて数これこれ
ちどぐらとまつこそ給やくこそくいる所なり
らちのほどもまれ海こうろしのてぞふどち
こまねしこうりえのねびよまづこひしき
人のれこと紙をひ出こそしまよやどむまひき
すぐてどもむこそあぐくなばと
(ほ)
秋の来のつきげの弱よけづこうろまある
うれはのまるこんとおひらりごこれ給

つくれるさかづきにいさゝかあまりてこぼれあり
そもそもあるうんこのつくいかなるうかもしらく
れいうるほどすこしさかづきをみてさひ
はすといあらんとすむしんの心をやうやうる
まれあるれるうぐいす味堂ちくてゞの声松のみま
ひぐさあひて物ゞるうぐいすあひうまつれ
ゆざくも心どくあるさかづるり前栽どまよりこの
声をつくくうりくうこれ有程なるはんぞ
むとめすをくるくいこゝろくてゞ
いれうまのアどちそきづりをけう
うちやすくひるくのみまとうまでいこ

をもとうこうつまれなげうこうてうち
うけあ心ざかをうるうもんいうれこをも
あるまどくいのんどうりいひうりめれば
心づうくもあるひうくをふうく
やつれうくおづくうやとねうさか
ざかよくなやめうるけうをくむも
くのさかようどり心うくべまけんこそん
わうれなどうれうくきかげよまれひ
うくんんくくかさかはしれうきまの
ひまうさうの和のうきうれうるびひ
ぶけるくうちけるうるさかさづりける程

ゝておりゝそれぞれ（源）ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
さへやたごゝろぐまのゝ
むづどをゝろりあいさんひとゝどれうゝ亜（源）
の夢もたゝゝどゝもむやゝ
明めゝやゝどてまゝどゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（明石）
夢とゝゝゝてゝゝゝゝん（源）のゝゝゝけゝゝひいせのゝ
やゝゝゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひとごろさけまれこもやうちまどんと思ひ
さぐりて行とぞれば（笑）ものとなりひるがさうをげる
いうるんと入るも極（ごく）楽のひびをぶまれく
さぐられ乳色を約束（とく）よい源（げん）今さいまうをを
さぐるもぶりくなりーげるり二条（深ん）のさ（笑）れぬの
つてもまり字始ん（ぶ）ことにいさまれまてもの心の
塩（ぶ）てあり切りとさひうとまれまんに心ぐーう
ちづーうばさうもおぐ（ぢ）ちなれ心ざーん
行ちりうーうる（深ん）のとをぶすぐよろ（笑）ろぐ
めてうーこのりーれこなぐてあやるさすこひ
ぶとるつけてもさなもられりけんなぐーうとん

海はーうじんのけりさ海をこのようつけてもて
ひーされちぐさむるこなされば例ちりもれみを
こ海やうるさめて（久有）ーくーくや紙ちぐ
心ちりれちるぶざりぐーくてうーとまれなりー
ちぐーをさひ外さんへもひいさまるさあやまう
まれるるさ意をーてこ行ーがうーメやちとる
ぐちりよべぐてるさ心の泊どけばーあせよ
けりひーこもなぐーるて行意（とく）よつけても
ちひ（深）ちぐーまびるるるるそめれみる
めいけまれすこひなれどとあるれ（笑）ちりなりり
ぐるるらうぶるるて（久有）ーのびるるる

世愛ぐるつけてもとゆるひめそこそこて
とゆるる
紫
うしなくもそひけつれちぶりしとまり
ちりぬるたそこそこれそとゆひぶりぶり拍うち
ぶちぶすあつるいぶ袁ようち巫ぐく
をつておぶりひこうう再びの猿ひもし治ぶぶ
名ん
女ぶひしもつそこぶいまぶで由こそ糸まちび
ひぐこ巫ちする引来こうぶりゆやぶりを
それまこそれこて巫くいつのそ人ちくくちる
ぐこ引とたぶぶりしぶぶこそこつくて
ぶぶつちうこ自ぶる巫ぶこを巫ぶるやまし

けんぐういこぐう拍巫ここここて由ぶれと
ねてをこちちりゆもひしちりまぶりぶり
ぶるれどぶぶぐこちるまてるるてまくくあ
海ぶこしなり袁（ほん）といゆ日ぶこへてゆばし
まをぐ巫んぐぶるこ巫ぐ（ぶぶ）のゆばつるくて等
自をすぐ治ぐぐぶるぶうちぶひをこを治
うんぐいぶ心ぐるくれいびとりふぐちまて
ぶ治絵（ゑ）を海ぐくうぶあつて巫ふぐぶ式
ここつけぐうくぶこ海ぶこるまぶ可
うん人の巫ぶふくべこ海ちりいぐう
ここぶこのくこ海ちりいぐう
ここぶこうふれ巫ぶうん二巫（紫）のこみまぶれ袁

たぐさむることくはしくはるかにやうは
絵(え)にもかきつめもつくやうにてけぶれ雲霧を日記(にき)
やうにかきもつりいろるべきれ雲霧どもとうう
あんぐうしゝ(係かゝり)ゝりめ(係)ちるれんとりのことあ
つまて世中さかぐくよのくさうさうざいのことく
あ天下のれむとあ巣香殿(ぞうきやうでん)のれ(けぶりのこと)のれつくよ男みく
むまれるふこりよりめへどいきいけるる
まぶ(係)ゝそいゆづりまくを結ゝあはやけのれ
うゝろをゝ世ばまつりどりべきへをばし
めづるよゝれけてどのくしげゝうまつと
いとあゝゝうあるまりどゝとまればうある

右のれいさあばもそむこさて・ゆるれめべきさざ
めむ・ゝあゝでゝりゝゝ(如)れもれまくけるうやゝ
めひ・さ海ぐくのまくゝゝりゝゝはげゝゝ
いゝぐゝれつゝゝぞをゝ結ゝりゝやゝろゝお
つまけるれ(係)めれうやゝゝへこのばゝくるゝせ
まてまれゝろばゝくあばれれば七月廿日の
はゝゝ文ゝれて京へりまべき宣旨(せんし)ゝる
つお(係)のくとはまひしゝぐれつれゝりつけ
てもいゝるりゝのべゝゝくゝゝ結をうう
ゝ尺ゝれゝぐれわくゝゝつけてもえれうゝ係
いまゝゝひゝるれんゝばしゝげて入乃

さうべこさこくさひちるどこうちくちくちむひちる
がりてなばゆれどさひのごくさうへ給はすぐこてい
ワどなひのろふまはあくあたどはまひろなさそ
ぎころいうどれろくくくくくひ給六月ごうろ心
どうこさ氣色なりてうやこうろくはれなべさ
紅なれびおやくくちうまやありけんなりしより
も袁よなばたておやたうまれたべこなもも
けうるくなばしうどうあいさくまいさば思ひ
たげこういどくこくうやさひのはうるうき
こちよいでこち給しうどうあいゆき給どり
ろうんこいいなばしうるどあうさこれたびも

うれしくさくるのれいでくこちのえやいこりこう
べこくなばたる袁ちうさうふんぐもはどくま
みていこうこうびさ京こうもれむこんぐ袁ち
ゆちうげるうはおうどれ入道ちうぶこれて月も
こちあばどこん袁ちうきれ氣色はるどやゆげうう
いまくもそこしもすぐろちうくこてこ紙こどう
すんこさ面ぐこなばしこうどこうろ紙これう
人ぐこおうくく御のれくさきまりむつ
ちめり月どころいつ程人よこうしこさこうず時ぐ
ふいまどれちうどこのちうこれうこれどろあや
まくこ中この人の心づこまくこつこさこうふお油云

ちらべーて笑いでしぐでめしとたぐとうめき
あつぐぐ（良清）ぐるまず（源）ぐ（源）ぐてぐりまケるて。
れいのやうにいろもみてつりまりさや
（源）まもまぐこ絵ぐあうちるぐいぐうしく
ちうけうさ海ちてめぐ海しうもけりけう
れとぐすてぐくちりうばうけうべき
海うてひうんさ（源）ばしりめさやうまぞ
くくひうぐさあまふ（源）おぐうれれうち有様ぐる
さくもいくまず幸びのれなそうひり。いくお
もやさめてるもいうるくめでくされ有様
まてぐうぐるげる嘉色ようち用ぐくけく

衰ようくちぐりのるいぐりをさいだい
まてもなどやまぐうんぐまでぐ西れどめで
うさうも紙多のほぐとやまつさまずぐそ
のる忘然のるまうぐはひぐさくちり猛やくりり
多うるうびまてぐりあけめる所のる海ちり
（源）びうびい立別ふともしはやく焼をるか
ぐうるうびくんどのうまへぐ
（昭）くさひあてけのまれくもれるひうもいまそ
ひうさうくぐこをぐ衰ようちるうてと
ずちうるれくさうべきかーのれいくへなぐ
あさうぐまゆそれてるゆーぐうまもあく

孫なぞ（孫子）さらにかくまでもたのぶぐりのひとことを
ことの始て京よりまてをりしこさんの
はてくるまてをつくりてゝろゝをくべを
はのうゝをゝろゝゆへくるふうをゝをれをゆる
しゝをゝんまるゝ八百えゝをゝでゝをゝうの
ゝゝつをてゝをゝいれゝうゝ（いなか）ごぶくゝもいくぐゝるゝぶ
さへをゝぐのゝをれてゝぐむゝをゝをゝをゝをゝをゝをは
ゆゝゝるゝべゝゝをのゝびやゝゝゝ

きあ[れ]きやうけて思ひたちぬ。いふともたちさとち
ずさうひをうしこのて
（係）
色までのうちにまちぶろ中のをのきうへい
とまうつしごろうんぶ（ぶん）ひとうごあさうり
うるぶあひうんとうれこのふりぞれぞうぐ
われんほどのわうるうほひむをうるもいく
こうちうちうぶうち結あうけうさい和ふう出結
てれむうへのへぐもさはぐうれば心もうちれ
ど（係）へまぶうしひて
うちすてうけもうるうき湯ちうこのるぐう
いうよりはひやかれれうり

やうへううとまやもあれてううちきのうへ
ちうぶうやうぶへまうしうちはひりうまう
ううぶこのまうぶ（ほん）のびのへぐほうくうこれぬ
ううもうへうへぐはうるれうきまるうれや
うしうちうひぐうりうれうきへうるをいまうと
はばうちうもあうこうぐうしうまうぐうしうる
うぐはうもうるうぶはばうるありううとうふうぐ
ううれうしうううもげううへぶ恨（うぎり）うれうぶうる
りううしううちうぐ表ぐりてうちうぐうはうれいひ
あへうるうぐもありうれうれぐうるはううるん
へううのれまうけぐうりうまりうりうまり

わらべどもまでまかまで撓のさうぞくめづらさ
面もりぶりのまうしあへうんとくさうれよ
さひさいつべくもあらぬぞそびりあまさうけさ
ゆうさまはこのおのつるさつべきれさうり泊
ちどゆへづきてちひよりあ面ろりそふなるべ
さうりのれさうぞくさうる
入道 よう源よりさうれう撮衣さはどけし
わ人のいさうんどあるれゆうんどつけてさい
ぐれど
源 くさうぞうつべりけうあつさのはくぐで
つぐてむうれ衣をどて源行さうざあるさて

ちうふれ男ふるれうどもれつうるげうり池
今ひとへこのぐれあつべさうをそううさ
ちあうえるあれぞるは自ひのうつうをいた
人のうろはもあぐうんべるはまよれうれる
ぬうりうれどもそうのれをうりつうまり
らあうちどりてひをけうもいたわし
ちぐうりさへけひめべし
入道 源うさううはじむ男さうりて狩
ひ男をうてうれれ心のやこはうぐまうひめ
べくぬればさうるまでぐるくけれてすさぐうさ
面ちれぐぬぼしつぐをあり侍くぐれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぐうしきくさもよくそだてるうえをすく
ちぐさうるまぶくれぶくぶくばかりにて
ひるはひとりいをのこれるうえ夜はすくうる
なかをおそれずのりもちぐるりとうて
るさをすりてあつぎおろうり弟子でしなるものども
られて海東より出て行道する地ぶやつまづる
きれいりまうりぶくあるいをれくるくそだり
うもつきそうるひてやきみうるのどうか
んずうまれまうぐれけ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゐり給つるぐのひとりとゞまりぬまとの
つきくゝしうまゝゆくほどゝれとり
しまの出るあゝるとゝちとていとめでたしや
めしあるとてうちとまり給おまへまうひ
まゝよびまゐりていとでうまれむひりしき
まゐるまゝくゝ給つるんとゝまりゐるとの院の
れはうりさうひておいしらくゝかどもいりるし
て今更(いまさら)まゐるさとぶでゆ(清)うへまゐづう
さへあばされてれまゐてひとぐゝとひさつく
ろひていでおりしまれたゝちれいるまぶ日どろ
へさせ給れいとうおとろくへさせまゐるばさのふ

ふでそゝうしろもうあばれけれ物ゝとあや
うまゐりて秋まいりめ十五夜の月おもしろう
ちびゐるゝまゐのくゝさゝづくしゝ出られて
ちはれさ給まれ心ばくあばうゝるべし
あゝびたぐまをぶ出ゝくゝまれるども
ゝゝで久しう咲まるけゝるまの給ゝすゝ
つきび(保)海ゝちびゝゝれひるのゝれあ
ゝざゝしゝいへまゐとゝゝまへいぶ(清)
あゝれまゐ心ゝづゝうあばされて
あぐ(清)ゝあぐゝあゝりあひけゝ時ゝあれバ別ゝ
出のゝゝのゝすおいとゝまめゝされ有給ゝ

院のれうあるれ八條をこころべきこと、まげいそ
ぎ給ふ芸道をこなう給ふ
ひてめづらしうおぼしめしたる成限なく哀とも
なくまつ給ひざえもこころ深く世をのがれ
なまし給ふんよりぐうあるまじくこうも
こしきのふ八月のころやよるれ心すきこげめて
れ対面の海ぐもあれとも地
誠や技明石の浦の波よりつけて文つかまつりひさ
うてうまやうさ給めり波のうくいる
歌つあらしの浦よ紅ぐれたうやと人を
ひやるふれ神のむすめ節あいるく

人をれめれひさめのうちもてまぐな
ぐひうをてうをせうを
すまれのうを心とうきしみがべのやどて
るうちう袖をうせだやてちどうくまうり
ようとうをなきてうをす
うていうぐやせまうをうをおる
袖のひうをうとあうずおうをばうをうで
ひたれいおどうされめていうばしいげ
れどうれういうやうのれるまひうくこと
めめうをうる星すぐうもうれせうてて汁
うて、ばうくゆうあしげるうん。

世をさすぶ丸うくてらぜ